

# 平成27年度 指定管理者評価シート

所 管 課	健康福祉部 福祉推進室 障害福祉課
評価対象期間	平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日

## 平成27年度 指定管理者評価シート<1> 指定概要 (指定管理者によりご記入をお願いします。)

施設概要	名 称	川西さくら園
	所在地	兵庫県川西市小戸3丁目12番10号
	設置目的	障害のある児童及び児童の保護者を通所させて、自立自活に必要な知識技能をあたえることを業務とする。
利 用 料 金 制	非利用料金制 ・ <u>一部利用料金制</u> ・ 完全利用料金制	
指定管理者	名 称	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会
	所在地	兵庫県川西市火打1丁目1番7号
指定管理業務の内容	<p>指定管理の業務内容を明確に記入してください。</p> <p>(1) 障害のある児童及び児童の保護者を通所させて、自立自活に必要な知識や技能をあたえること  (2) 施設の利用の承諾、その取り消し、その他福祉センターの利用に関すること  (3) 施設の利用料の徴収及び免除に関すること  (4) 施設及び付属設備の維持管理に関すること  (5) 施設の開館時間、及び休日変更に関すること  (6) その他、市長が必要と認める業務に関すること</p>	
指定期間	平成24年4月1日 ~ 平成29年3月31日	

A	優	良
B	良	好
C	課	題 含
D	要	改 善

施設名	川西さくら園	管理者	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会	所管課	健康福祉部 福祉推進室 障害福祉課	
区分	指定管理者自己評価結果 【指定管理者記入欄】			指定管理者一次評価 【市所管記入欄】		指定管理者二次評価 【外部評価者記入欄】
評価項目及びポイント	評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)		評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)	
1 施設の設置目的の達成に関する取組み【有効性】	A			A		
(1-1) 施設の設置目的である事業運営の達成	A			A		
法令や利用のルール、事業計画に則って施設の事業運営が適切に行われたか。また、施設を最大限に有効活用するとともに、施設の設置目的に沿った成果が得られたか。	A	法令に基づき適切な人員配置を行い、児童発達支援・相談支援・保育所等訪問支援を実施しました。児童発達支援では保健センター及び病院からの紹介を受け、随時保健師と連携し見学相談を実施しました。在籍児童に対しては、保育・訓練が一体となった効果的な療育を実施しています。また、在籍児童の保護者との面談も兼ね個別の支援計画・サポートブックを作成し次の支援に繋げる役割を担っています。兵庫県からの受託事業障害児等療育支援事業の実施で在宅障がい児の家庭への療育及び相談助言や施設支援も行いました。相談支援では、サービス利用計画の作成を拡大、保育所等訪問支援では、地域の保育所・幼稚園・小学校等に所属する児童への療育支援を実施しました。		A	法令に基づき、適切な人員配置を行い支援を実施した。	
利用に係る登録方法や手続について、利用者に対し十分に周知を行い、適正な方法で行われたか。	A	当園利用にあたっては、相談支援とも連携を図り、申請書類の書き方や手続についても説明しました。入園にあたっては、契約書・重要事項説明書・川西さくら園のしおり等を活用して具体的でわかりやすい説明に努めました。		A	利用者に対してしおり等を活用するなど、分かりやすい説明を行った。	
施設の設置目的に応じた効果的な営業や広報活動を行い、その結果、効果があったか。	A	保健センターとの連携は、園の効果的なPRになっています。また、関係機関へのパンフレットやしおりの配布、社会福祉協議会ホームページへの掲載、地域での研修会での説明により、事業の周知に努めています。		A	関係機関へのパンフレットの配布やホームページの掲載など、事業の周知に努めている。	
< 課題 >		保育所等訪問支援については、川西さくら園修了者に限定した実施となりましたが、本来、ニーズのある方全てに実施する必要があります。センターとしてのアウトリーチ機能の充実が課題となります。			引き続き、待機児童の減少に取り組む必要がある。	
< 改善内容 >		施設の用途変更により、2階のスペースでのさくらば事業川西さくら園相談支援事業の実施が可能となりました。その結果、療育の効率的な実施が実現するとともに、相談支援利用者の利便性も拡大しました。全ての事業において利用者数が増加しました。しかし、当初2階のトイレ・洗面等が大人仕様になっており利用者が使いにくい状況でした。平成28年3月に改修が終了し利便性が向上しました。			相談支援事業をふれあいプラザから移転させるとともに、新たに保育所等訪問支援事業を開始し、児童発達支援センターとしての体制を整えた。	
(1-2) 施設の利用状況及び事業への参加状況	A			A		
施設の目的に則って、有効に活用(利用)されていたか。	A	児童発達では、園児への直接支援としての保育・訓練のチームアプローチ・季節行事・クッキング保育・給食バイキングなどの実施、また、地域の同年齢児との「保育所交流・幼稚園交流」、家族支援としての個別面談・心理相談・保護者研修会・療育参観日等提供内容の充実にも努めました。相談支援においても基本相談・計画相談は元より、ピアカウンセリングの実施にも力を入れ利用者の拡大を図りました		A	児童発達支援センターとして、児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、相談支援事業などを実施し、地域の中核的な療育支援機関としての役割を果たしている。	
施設の利用者や実施された事業への参加者数の増加、サービス利用者の利用回数の促進など創意工夫が図られたか。	A	平成27年度は、児童発達支援において前年度よりも登録児童数を増やした(56名から63名)に加え、利用率が前年度を上回ったため(63%から79%)利用者数増となりました。また、きょうだい児保育も今年度は夏休みだけではなく、春休みにも拡大し6日間で12名の療育保障ができました。相談支援については、ふれあいプラザから移転したことで利便性が増し、相談利用者数も著しく増加しました。		A	登録児童数を増やすなど、出席率の向上に努めている。	
< 課題 >		相談支援において、平成28年3月時点でセルフプランの方もおられ、早期に全ての方に対してプランを作成する必要があります。			引き続き、希望者全員に対し、障害児支援利用計画を作成できるよう努める必要がある。	
< 改善内容 >		児童発達支援において1日あたりの利用者数も増加し、それに伴い延べ利用者数も増加しました。相談支援についても利便性が向上し、相談者数も増加し、サービス利用計画作成も88%になりました。			児童発達支援・相談支援ともに利用者数が増加した。	
(1-3) 利用者の満足度	A			A		
利用者の満足度を把握するため、定期的にアンケート調査などを実施したか。	A	毎年実施してきたアンケート調査を、平成27年度も12月に実施しました。調査項目も見直しを行った上での実施となりました。		A	調査項目を見直し、12月に実施した。	
利用者アンケート調査の結果から、施設利用者ニーズや満足度を把握し、事業の改善等が得られたか。	A	アンケート結果を集計し、課題ごとに分類を行った上で、改善が可能な項目については、改善策をまとめ、利用者にも周知し、改善を実施しました。		A	アンケートの結果を利用者に周知するとともに、改善を行った。	
利用者からの苦情に対して十分な対応がなされたか。	B	改善が可能な内容については、迅速に対応するよう心がけました。しかし、利用者の要望の中には、園児用トイレの使いづらさや保育スペースの不足に関するものが毎年あがっており、市に要望をあげていますが、実現できていない状況です。		A	適切に対応している。	
アンケート調査以外に、さまざまな手法で利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	A	苦情窓口の設置・意見箱の設置を行い、苦情・要望に関しては迅速丁寧に対応しました。サービスについてのアンケート・行事終了後の感想文・クラス懇談会・個人面談の実施等とおしてご家族の思いを伺う機会を設け、ご意見やご提案に対して早急な対応を行いました。		A	アンケート以外にも、苦情窓口や意見箱の設置などを通じ、利用者の意見を聞くよう努めている。	
サービスの質を向上させるため具体的な取り組みを行ったか。また、取り組みの結果、どのような効果が得られたか。	A	延長保育の試行や、医療的なケアが必要な重度心身障がい児の施設利用方法の見直しを行い、利用される保護者の利便性の向上が図れました。また、療育の質の向上をめざし、職員研修にも力を入れ、職員のスキルアップを図りました。研修参加により職員の視野の広がりが感じられました。		A	きめ細やかな工夫の積み重ねにより、サービスの向上に努めている。	
< 課題 >		コストがかかることもあり、施設のハード面での改修が、思うようには実現できないことが課題です。			施設の改修は、計画的に実施する必要がある。	
< 改善内容 >		延長保育の実施や重度心身障がい児で医療的なケアが必要な方の他児童発達支援事業所との併用を認めたことにより保護者のレスパイトを図る事ができました。			意見なし	

A	優 良
B	良 好
C	課 題 含
D	要 改 善

施設名	川西さくら園	管理者	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会	所管課	健康福祉部 福祉推進室 障害福祉課	区分	指定管理者自己評価結果 【指定管理者記入欄】	指定管理者一次評価 【市所管記入欄】	指定管理者二次評価 【外部評価者記入欄】
評価項目及びポイント	評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)	評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)					
2 効率性の向上に関する取組み 【効率性】	A		A			2 効率性の向上に関する取組み 【効率性】			
(2-1) 経費の節減	A		B			(2-1) 経費の節減			
施設の管理運営に関し、経費を効率的に節減するための十分な取組みが行われ、その効果が得られたか。	B	受水槽の配管不良・警報装置の誤作動により漏水し、水道光熱費費用が不足しました。しかし、年間を通じ利用者が不在の時間帯については、こまめに消灯することや、エアコンの使用時間帯・適正温度の維持に職員全体で取り組みました。事務所での空調の一括管理も可能で効率化が図れています。	C	漏水により、多額の水道費用を支出することとなった。		意見なし			
管理運営業務の遂行にあたり、業者発注や業務委託により行われる場合、適切な水準で行われ、経費が最小限となるような競争が行われたか。	A	平成27年度についても、業務委託については、相見積もりを取り経費の削減を行いました。また、植木の剪定については、運転業務職員が行いました。	A	委託業務の見直しに取り組むなど、適切に実施している。		意見なし			
< 課題 >		用途変更により、水の使用量が減少した中で、今後受水槽を残すか否かを検討することが課題です。		施設や設備の経年化に伴い、日常の維持管理に従前にも増して意を用いる必要がある。		意見なし			
< 改善内容 >						意見なし			
(2-2) 収入の増加	A		A			(2-2) 収入の増加			
収入を増加させるための具体的な方法の検討や取組みを行ったか。	A	ひまわり荘が移転し、施設の用途変更が行われたことで、さくらんぼが独立し、効率的に事業を展開できるようになりました。また、相談支援においても、移転により、利用者の利便性が高まりました。児童発達支援では、登録者数を増やしました。	A	児童発達支援の登録児童数を増加させるなど、出席率の向上を図る取組みを行った。		意見なし			
収入の増加など取組みの効果は得られたか。	A	児童発達支援においては、当初予定していた出席率63%に対し79%となったため、増加しました。相談支援においても、単価アップに加え相談者数が著しく増加したため、収入が増加しました。	A	出席率の向上や相談支援事業の利用者増等により、大幅な収入の増加となっている。		意見なし			
< 課題 >		相談支援においては、利用者が毎月増え続けている状況が続いており社会資源も飽和状態になりつつあるため、社会資源の開拓が課題です。また、関係機関も多く、担当者会議がすべての利用者に行っていないことも今後の課題です。		相談支援事業の利用者増加に対し、適切に対応していく必要がある。		意見なし			
< 改善内容 >		児童発達支援では登録児童数の拡大やきょうだい児保育の春休みへの拡大により利用者が増加しました。相談支援も利便性が拡大し相談利用者が増えました。				意見なし			
(2-3) 収支のバランスなど	A		A			(2-3) 収支のバランスなど			
収支のバランスは、適切であったか。	A	人事異動に伴う人件費の増加や漏水による水道光熱費の増加もありますが、それ以上に障害福祉事業費収入がありました。	A	児童発達支援の出席率の増加や相談支援のサービス利用計画及びモニタリング数の増加により、前年度増となった。		意見なし			
費用対効果を考えながら、経費の効果的で効率的な執行が行われたか。	A	空調については、事務所での一括管理も実施し、効率を図りました。こまめな消灯にも努めました。また、紫外線を予防するため遮光ネットの補強を行いました。2Fベランダにも簾を設置し、光熱費の節減に努めました。	A	様々な経費節減の取組みが行われている。		意見なし			
収支の内容に不適切な点はなかったか。	A	建築年数27年を経過するに伴い、修理箇所が増えています。また、備品も経年劣化し、使用できなくなったため購入を余儀なくされる場合もありました。	A	適切に行われている。		意見なし			
< 課題 >		修繕が必要な箇所も増えてきており、優先順位をつけて改修を進めていく事が課題です。		施設の経年化に伴い、修繕箇所の増加が見込まれるが、日常の管理運営の中で修繕の必要な箇所を的確に把握し、計画的な修繕が行う必要がある。		意見なし			
< 改善内容 >						意見なし			

A	優 良
B	良 好
C	課 題 含
D	要 改 善

施設名	川西さくら園	管理者	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会	所管課	健康福祉部 福祉推進室 障害福祉課	指定管理者自己評価結果 【指定管理者記入欄】	指定管理者一次評価 【市所管記入欄】	指定管理者二次評価 【外部評価者記入欄】
区分								
評価項目及びポイント	評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)		評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)			
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み【適正性】	A			A			3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み【適正性】	
(3-1) 管理運営の実施状況	A			A			(3-1) 管理運営の実施状況	
法令や市等の指導に基づき、施設の管理運営に、適切な人員配置をされていたか。	A	各事業ともに法令に沿った人員配置を行っています。専従の理学療法士・言語聴覚士・作業療法士に加え作業療法士の増員が図られたことで、訓練を受けられる人数も増加し、利用者のニーズに沿った支援ができました。しかし、訓練に対するニーズは高く、さらなる増員配置が望まれます。		A	適切に配置されている。		意見なし	
法令や市等の指導に基づき、業務に必要な研修・教育が適切に行われたか。	A	施設職員による園内研修及び保護者研修会のビデオ研修を実施し職員全体の資質向上に努めています。近肢連の研修を中心に所外研修にも適宜参加しています。また、個人でも休日に講演会や研修会に参加し自己研鑽に努めている職員もいますが、業務に必要であると認められた場合には公費で受講させ復命させました。		A	園内研修の実施や所外研修への参加など、職員の資質向上に努めている。		意見なし	
経費の節減やサービス提供の質など、管理運営が適切に行われていたか。	A	平成元年に設立したため、設備も経年劣化が見られます。軽微な不具合は職員による修繕で対応し、経費節減に努めています。園周囲・館内清掃は引き続き職員が毎日実施し利用者に気持ち良く利用して頂いています。サービスの提供の質については、職員研修で個々の職員のスキルを高めるとともに、職員会議やリーダー会議、クラス会議等でサービスの見直しを行っています。		A	きめ細やかな支援を行い、サービス向上に努めている。		意見なし	
施設の良好な管理運営を進めるため、新たな取り組みについて、指定管理者自ら提案・検討を進め、実施されたか。	A	施設の用途変更について提案し、平成26年度末にひまわり荘が移転し、平成27年度よりさくらんぼ・川西さくら園相談支援が独立することにより、児童に対する支援の充実が図られました。		A	施設の有効活用について自ら提案し、事業の充実を図った。		意見なし	
< 課 題 >		訓練に対するニーズが大きな状況の中で、どのように訓練の機会を確保していくかが課題です。			訓練の拡充を図る方策を検討する必要がある。		意見なし	
< 改善内容 >		作業療法士の増員に伴って、訓練・保育所等訪問の充実が図られました。			訓練及び保育所等訪問支援の充実が図られた。		意見なし	
(3-2) 法令順守、個人情報の保護、安全対策、危機管理体制、平等利用など	A			A			(3-2) 法令順守、個人情報の保護、安全対策、危機管理体制、平等利用など	
法令に沿った適正な事業の実施を行うだけでなく、チェック体制などの整備や機能をさせているか。	A	児童発達支援管理責任者の専従や支援計画書の作成など法令に基づいた支援を行いました。個別支援計画書については、管理者によるチェックを行いました。		A	法令に基づいた支援を行い個別支援計画書については、管理者によるチェックを行った。		意見なし	
施設利用者の個人情報保護などの取扱いが適切に行われているか。	A	個人情報のファイルは、書庫に入れ就業時間外は施錠しています。個人情報の持ち出しは必要時以外原則的に禁止し、個人情報の入ったパソコンについても、収納場所を定め就業時間外は施錠して管理しています。		A	適切に行われている。		意見なし	
日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されているか。	A	毎月ヒヤリはっと会議を開催し、その結果を毎月職員会議で全体に周知し再発防止に努めました。		A	定期的にヒヤリはっと会議を開催するなど、適切に運営されている。		意見なし	
防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であるか。	A	毎月の避難訓練、年2回の総合訓練を実施し、防災に努めました。		A	適切に行われている。		意見なし	
事故発生時や非常災害時の対応についてマニュアルを作成するなど適切な対応ができるように整備しているか。	A	緊急時のマニュアルについては、作成し職員に周知を図っています。事故発生時には、事故報告書を作成し、本部に連絡するとともに、利用者の事故については、保険の適用を、職員の労務中の事故については、労務災害の手続きを速やかに行いました。		A	適切に行われている。		意見なし	
利用者を限定しない施設では、利用者が平等に利用できるよう配慮したか。							意見なし	
利用者が限定される施設では、利用者の選定を公平でかつ適切に実施したか。	A	保健センターや病院からの紹介により療育が必要と判断された児童について相談支援の相談員も交え、支援検討を行い、適切な資源に繋がりました。		A	療育が必要とされた児童については、相談支援事業の相談員も交え検討するなど、適切に行われている。		意見なし	
< 課 題 >		火災についての訓練は、充実していますが、地震を想定した訓練ができていないことが課題です。			あらゆる危機管理について検討する必要がある。		意見なし	
< 改善内容 >							意見なし	

A	優 良
B	良 好
C	課 題 含
D	要 改 善

施設名	川西さくら園	管理者	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会	所管課	健康福祉部 福祉推進室 障害福祉課	
区分	指定管理者自己評価結果 【指定管理者記入欄】			指定管理者一次評価 【市所管記入欄】		指定管理者二次評価 【外部評価者記入欄】
評価項目及びポイント	評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)		評価レベル	なぜその評価に至ったか(説明)	
総合評価	指定管理者自己評価結果 【指定管理者記入欄】			指定管理者一次評価 【市所管記入欄】		指定管理者二次評価 【外部評価者記入欄】
評価ランク	A			A		
・評価できる内容	川西市における障がい児の療育施設「児童発達支援センター」として、早期発見された児童の早期療育に努めました。保育・訓練・医療が連携し療育を展開しています。相談支援においても、利用者数が著しく増加し、88%の方にサービス利用計画を作成することができました。保育所等訪問支援についても、保育所・幼稚園にとどまらず、小学校でも展開できつつあります。			児童発達支援センターとして、児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、相談支援事業などを実施し、地域の中核的な療育支援機関としての役割を果たしている。		特になし
・平成27年度に改善した内容	児童発達支援においては、作業療法士を増員しました。また、待機児童解消のため、登録人数を増やし、利用者の要望にもお応えして、延長保育やきょうだい児保育を実施しました。また、医療的なケアが必要な児童については、他の施設の併用も認め、療育時間内は看護師による対応も行いました。設備面においては、2階のトイレ・洗面台が児童用に改修できました。			利用者等の要望に応じ、作業療法士の増員やきょうだい児保育の充実等を行った。また、待機児童の減少や出席率の向上を図るため、登録児童数の増員を行った。		
・平成27年度に改善したことによる効果	作業療法士の増員により、訓練・保育所等訪問の充実が実現しました。また、登録利用者数を増やすことやきょうだい児保育の実施により利用者数が増加しました。延長保育・医療的ケアの必要な児童への対応により、保護者のレスパイトも実現しました。			作業療法士の増員により、訓練や保育所等訪問事業の充実が図られた。また、登録児童数の増員により、出席率の向上が図られた。		
・問題があり次年度以降改善が必要な点	保育所等訪問支援の周知が、特に小学校において徹底できていない状況があります。			引き続き、待機児童の減少に取り組む必要がある。		ヒヤリハット会議で明らかとなった課題については、マニュアルへの反映など具体的な対策につなげる必要がある。
・改善方法とその時期	保育所等訪問支援については、障害福祉課・教育相談センターとも連携しながら周知を図ります。(平成28年度内に)			待機児童の多い訓練プログラムの実施回数を増加させるため、専門職員が訓練プログラムにより従事できるよう、職員配置等の見直しに取り組むことが望まれる。		

【記入上の留意点】

- (1) 指定管理者は、自己評価記入欄に、市所管課は、一次評価記入欄に評価を記入いただきますようお願いいたします。  
(2) 水色の表観覧にはドロップダウンで評価(A、B、C、D)が選択できます。評価欄の濃淡ピンク色の部分は、水色の部分に評価を入力すると自動的に総合評価が表示されます。